



リリースノート

バージョン2018.11.0

このエディションの『リリースノート』は、バージョンBlack Duckの2018.11.0を対象としています。

本ドキュメントは2018年11月30日に作成または更新されました。

コメントおよび提案については、次の宛先までお送りください。

Black Duck Software, Incorporated
800 District Avenue, Suite 201
Burlington, MA 01803-5061 USA

Copyright © 2018 by Black Duck Software, Inc.

All rights reserved. 本ドキュメントの使用はすべて、Black Duck Software, Inc. とライセンス所有者の間の使用許諾契約に準拠します。本ドキュメントのいかなる部分も、Black Duck Software, Inc. の書面による許諾を受けることなく、どのような形態または手段によっても、複製または譲渡することが禁じられています。

Black Duck、Know Your Code、およびBlack Duckロゴは、米国およびその他の国におけるBlack Duck Software, Inc. の登録商標です。Black Duck Code Center、Black Duck Code Sight、Black Duck Hub、Black Duck Protex、およびBlack Duck Suiteは、Black Duck Software, Inc. の商標です。他の商標および登録商標はすべてそれぞれの所有者が保有しています。

章 1: 製品の発表	1
バージョン2018. 11. 0での発表	1
バージョン5. 0. 0での発表	1
dependencyScanオプション	1
章 2: 新機能	2
バージョン2018. 11. 0の新機能	2
カスタムスキャン署名 - ベータ版	2
コンテナのタイムゾーンを設定する機能	2
バージョン5. 0. 0の新機能	2
Black Duck Binary Analysis	2
監査情報	3
ナレッジベースコンポーネントをカスタマイズする機能	3
直接的および推移的な依存関係	3
ログファイルの自動削除	4
新しいジョブ	4
バージョン4. 8. 0の新機能	4
新しい製品名	4
プロジェクトバージョンのクローンの作成	4
ファイルレベルのライセンスデータ	4
ユーザーガイド	4
新しいジョブ	4
バージョン4. 7. 0の新機能	4
カスタムコンポーネント	4
新しいコンポーネントマネージャの役割	5
構成表の階層表示	5
新しいプロジェクトフィールド	5
バージョン4. 6. 0の新機能	5
プロジェクト作成者の役割	5
バージョン4. 5. 0の新機能	5
ライセンス管理	5
スニペットマッチ	5
修正ガイダンスAPI	6
バージョン4. 4. 2の新機能	6

バージョン4. 4. 1の新機能	6
パスワードの入力試行が10回失敗すると、ユーザーアカウントがロックアウトされます	6
VulnDB情報の保持	6
バージョン4. 4. 0の新機能	7
Black Duckセキュリティアドバイザリ (BDSA)	7
暗号文を伴うコンポーネントの表示機能	7
APIキーを通じたREST APIへのアクセス	7
新しいスキャンサービス	7
バージョン4. 3. 1の新機能	8
エンドユーザーライセンス契約	8
バージョン4. 2. 0の新機能	8
ライセンス管理	8
新しいライセンスマネージャの役割	8
OpenShiftのサポート	8
構成表を比較する機能	8
拡張された脆弱性データ	8
Black Duckセッションタイムアウト値の設定機能	8
バージョン4. 1. 1の新機能	9
SAMLのIDPメタデータXML ファイルのサポート	9
バージョン4. 1. 0の新機能	9
Kubernetesのサポート	9
バージョン4. 0. 0の新機能	9
概要ダッシュボード	9
外部のPostgreSQLデータベース	9
修正ガイダンス - ベータ版	9
クロスサイトリクエストフォージェリ	9
シングルサインオンのサポートを実現するためのSAML	9
ウェブサーバーの構成設定	9
デフォルトのユーザーランディングページ	10
バージョン3. 7. 0の新機能	10
新しいBlack Duck Docker アーキテクチャ	10
問題追跡機能	10
章 3: 変更された機能	11
2018. 11. 0で変更された機能	11
複数のコンポーネントのバージョン/サブプロジェクトをレビューする機能	11
証明書認証なしでの外部PostgreSQLインスタンスの使用をサポート	11
ライセンス管理の拡張機能	11
hub-proxy. env ファイルの名前の変更	11
Docker イメージファイルの名前の変更	11
APIの拡張機能	12
dependencyScanオプション	12

日本語	12
5.0.2で変更された機能	12
5.0.1で変更された機能	12
5.0.0で変更された機能	12
カスタムコンポーネント管理の機能拡張	12
運用リスクの機能拡張	12
SSOでサポートされるローカルログアウト	13
APIの拡張機能	13
構成表の変更アイコン	13
ライセンス管理ステータスの変更	13
日本語	13
4.8.3で変更された機能	13
4.8.2で変更された機能	14
4.8.1で変更された機能	14
4.8.0で変更された機能	14
プロジェクトバージョンの新しいフェーズ	14
日本語	14
4.7.2で変更された機能	14
階層構成表	14
4.7.1で変更された機能	14
コンポーネントダッシュボードのフィルタ	14
4.7.0で変更された機能	14
ポリシーの上書きまたは上書きの削除にコメントを追加する機能	14
構成表比較の強化	15
スニペットの一括編集機能	15
APIの拡張機能	15
Protex BOMツール	15
ジョブへの変更	15
日本語	15
4.6.2で変更された機能	15
4.6.1で変更された機能	15
4.6.0で変更された機能	16
Docker対応バージョン	16
暗号に関する拡張機能	16
ライセンス管理の拡張機能	16
APIの拡張機能	16
日本語	16
4.5.1で変更された機能	16
4.5.0で変更された機能	17
ユーザーの役割の拡張	17
新しい認証サービス	17

4. 4. 2で変更された機能	17
4. 4. 1で変更された機能	17
Black DuckスキャンクライアントのNTLMサポート	17
ログファイルに含まれるユーザーログイン情報	17
National Vulnerability Databaseウェブページへのリンクが脆弱性の詳細のページに追加さ れました	17
4. 4. 0で変更された機能	17
ライセンス管理の機能強化	17
ハードウェア要件の変更	17
Black Duckスキャナで依存関係の検出がオプションになりました	17
SAMLの機能強化	18
プロジェクトバージョンレポートでカラム名が変更されました	18
APIの拡張機能	18
レポートデータベースの機能強化	18
Docker Run	18
日本語	18
Black Duckの統合	18
[ジョブ] ページの機能強化	18
4. 3. 0で変更された機能	19
コードの場所をスキャンに変更	19
ポリシー管理の機能強化	19
グループ管理の機能強化	19
ユーザーの管理の機能強化	19
[プロジェクトバージョン] ページに追加されたフェーズフィルタ	19
[スキャン] ページの機能強化	19
同一のキュースキャンをスキップ	20
APIの拡張機能	20
インストールガイド	20
日本語	20
Black Duckの統合	20
ツールページの再編成	20
ユーザビリティの向上	20
4. 2. 0で変更された機能	21
PostgreSQLのバージョン	21
LDAP構成	21
レポートに含まれるサブプロジェクト情報	21
ポリシールールの機能強化	21
日本語	21
APIの拡張機能	21
Black Duckの統合	21
ユーザビリティの向上	22

4. 1. 2で変更された機能	22
Black Duckからのログアウト	22
4. 1. 0で変更された機能	22
新しい署名スキャナ 2.0 - ベータ版	22
APIの拡張機能	22
ドキュメントコンテナ	23
LDAPのログ	23
PostgreSQLのバージョン	23
Black Duckの統合	23
4. 0. 0で変更された機能	24
通知ファイルレポートの改良点	24
新しいBlack Duckモジュール	24
レポートデータベースの改良点	24
署名スキャナコマンドラインの改良点	24
スキャンコンテナの改良点	24
商用コンポーネント	24
基本認証のサポート	25
スキャンの改良点	25
日本語	25
Black Duckの統合	25
ユーザビリティの向上	25
3. 7. 0で変更された機能	25
レポートデータベースの改良	25
ポリシールールの機能強化	25
役割「コードスキャナ」	26
APIの拡張機能	26
Black Duckの統合	26
日本語	26
ユーザビリティの向上	26
章 4: 修正された問題	27
2018. 11. 0で修正された問題	27
5. 0. 2で修正された問題	27
5. 0. 1で修正された問題	28
5. 0. 0で修正された問題	28
4. 8. 2で修正された問題	29
4. 8. 0で修正された問題	29
4. 7. 1で修正された問題	29
4. 7. 1で修正された問題	30
4. 7. 0で修正された問題	30
4. 6. 2で修正された問題	30
4. 6. 0で修正された問題	31

4. 5. 0で修正された問題	31
4. 4. 3で修正された問題	31
4. 4. 2で修正された問題	32
4. 4. 0で修正された問題	32
4. 3. 1で修正された問題	32
4. 3. 0で修正された問題	32
4. 2. 0で修正された問題	32
4. 1. 1で修正された問題	33
4. 1. 0で修正された問題	33
4. 0. 0で修正された問題	33
3. 7. 1で修正された問題	34
章 5: 既知の問題と制限事項	35

Black Duck ドキュメント

Black Duckのドキュメントは、オンラインヘルプと次のドキュメントで構成されています。

タイトル	ファイル	説明
リリースノート	release_notes.pdf	新機能と改善された機能、解決された問題、現在のリリースおよび以前のリリースの既知の問題に関する情報が記載されています。
Docker Composeを使用したBlack Duckのインストール	install_compose.pdf	Docker Composeを使用したBlack Duckのインストールとアップグレードに関する情報が記載されています。
Docker Swarmを使用したBlack Duckのインストール	install_swarm.pdf	Docker Swarmを使用したBlack Duckのインストールとアップグレードに関する情報が記載されています。
Kubernetesを使用したBlack Duckのインストール	install_kubernetes.pdf	Kubernetesを使用したBlack Duckのインストールとアップグレードに関する情報が記載されています。
OpenShiftを使用したBlack Duckのインストール	install_openshift.pdf	OpenShiftを使用したBlack Duckのインストールとアップグレードに関する情報が記載されています。
使用する前に	getting_started.pdf	初めて使用するユーザーにBlack Duckの使用法に関する情報を提供します。
スキャンベストプラクティス	scanning_best_practices.pdf	スキャンのベストプラクティスについて説明します。
SDKを使用する前に	getting_started_sdk.pdf	概要およびサンプルのユースケースが記載されています。

タイトル	ファイル	説明
レポートデータベース	report_db.pdf	レポートデータベースの使用に関する情報が含まれています。
ユーザーガイド	user_guide.pdf	Black DuckのUI使用に関する情報が含まれています。

Black Duck統合のドキュメントは、[Confluence](#)にあります。

トレーニング

Synopsys Software Integrity, Customer Education (SIG Edu) は、すべてのBlack Duck教育ニーズに対応するワンストップリソースです。ここでは、オンライントレーニングコースやハウツービデオへの24時間365日のアクセスを利用できます。

新しいビデオやコースが毎月追加されます。

Synopsys Software Integrity, Customer Education (SIG Edu) では、次のことができます。

- 自分のペースで学習する。
- 希望する頻度でコースを復習する。
- 試験を受けて自分のスキルをテストする。
- 終了証明書を印刷して、成績を示す。

詳細については、<https://education.synopsys.com>を参照してください。

Customer Success Community

Black Duck Customer Successコミュニティは、カスタマサポート、ソリューション、および情報を提供する主要なオンラインリソースです。Customer Successコミュニティでは、すばやく簡単にサポートケースを開いて進行状況を監視したり、重要な製品情報を確認したり、ナレッジベースを検索したり、を使用している他のBlack Duckのお客様から知見を得たりできます。Customer Success Communityセンターには、共同作業に関する次の機能があります。

- つながる - サポートケースを開いて進行状況を監視するとともに、エンジニアリング担当や製品管理担当の支援が必要になる問題を監視します。
- 学ぶ - 他のBlack Duck製品ユーザーの知見とベストプラクティスを通じて、業界をリードするさまざまな企業から貴重な教訓を学ぶことができます。さらにCustomer Hubでは、最新の製品ニュースやBlack Duckの最新情報をすべて指先の操作で確認できます。これは、オープンソースの価値を組織内で最大限に高めるように当社の製品やサービスをより上手に活用するのに役立ちます。
- 解決する - Black Duckの専門家やナレッジベースが提供する豊富なコンテンツや製品知識にアクセスして、探している回答をすばやく簡単に得ることができます。
- 共有する - Black Duckのスタッフや他のお客様とのコラボレーションを通じて、クラウドソースソリューションに接続し、製品の方向性について考えを共有できます。

[Customer Successコミュニティにアクセスしましょう](#)。アカウントをお持ちでない場合、またはシステムにアクセスできない場合、communityfeedback@blackducksoftware.comに電子メールを送信するか、電話

で+1 781.891.5100（内線5）にお問い合わせください。

Black Duckサポートとやり取りする方法については、
<https://www.blackducksoftware.com/support/contact-support>を参照してください。

バージョン2018.11.0での発表

他のSynopsys製品との相乗効果がより反映されるように、Black Duckのリリースバージョンが変更されました。リリース番号は、YYYY.MM. 値になります。任意の月にリリースされる最初のバージョンの値は0になります。このため、今回のリリースのリリースバージョンは2018.11.0になります。

バージョン5.0.0での発表

dependencyScanオプション

コマンドライン出力とドキュメントで説明されているように、署名スキャナの**--dependencyScan**オプションは廃止されました。Black Duck Softwareは、宣言された依存関係を検出するためにBlack Duck Detectを使用することをお勧めします。

Black Duckの次のメジャーリリースでは、**--dependencyScan**オプションは削除されます。

詳細については、Customer Successマネージャにお問い合わせください。

バージョン2018.11.0の新機能

カスタムスキャン署名 - ベータ版

構成表がすべてのコードを追跡できるように、Black Duckではカスタムスキャン署名を提供するようになりました。コードで使用しているサードパーティおよびプロプライエタリソフトウェアの判定に使用できます。

このベータ版の機能を使用する場合には、機能を有効にするための詳細とパフォーマンススキャンの潜在的な影響に関する詳細について、Synopsysのカスタマーサポート担当者またはアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

Important: これは、カスタムコード署名機能のベータ版です。そのため、この機能は期待どおりに機能しない可能性があります。実稼働環境での使用は推奨していません。また、この機能を使用すると、大幅にパフォーマンスが低下する可能性があり、スキャン時間に影響をおよぼす可能性があります。特に多数のスキャン対象プロジェクトがあるシステムやプロジェクトの規模が非常に大きいシステムでは大きな影響を受ける可能性があります。このベータ版の機能を使用する場合には、機能を有効にするための詳細とパフォーマンススキャンの潜在的な影響に関する詳細について、Synopsysのカスタマーサポート担当者またはアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

コンテナのタイムゾーンを設定する機能

新しい環境変数のTZが追加されました。この変数を使用すると、Black Duckコンテナのタイムゾーンを変更できるため、ログのタイムスタンプをローカルタイムゾーンで表示できます。

バージョン5.0.0の新機能

Black Duck Binary Analysis

Black Duck - Binary Analysis (BDBA) はBlack Duckの新しいライセンス機能で、ソフトウェアライブラリ、実行可能ファイル、およびコードベース内で使用されているベンダー提供のバイナリの、オープンソースのセキュリティ上のリスク、コンプライアンスリスク、および品質リスクを識別します。BDBAは、さまざまなファームウェア形式、ファイルシステム/ディスクイメージ、インストール形式、およびさまざまな圧縮およびアーカイブ形式など、幅広いファイルタイプをサポートしています。

Black Duck Detectを使用してソフトウェアまたはファームウェアをスキャンすると、スキャンの結果がプロジェクトバージョンの構成表に表示されます。これらのファイルを容易に判定できるように、構成表にはマッチタイプがバイナリとして表示されます。

Black Duck – Binary Analysisは、Docker Compose、Docker Swarm、およびKubernetesでサポートされます。

監査情報

Black Duckでは、次の監査情報を提供します。

- プロジェクトでは、次のユーザーの情報を提供します。
 - ・ このプロジェクトを作成したユーザーおよび作成された日付。
 - ・ このプロジェクトを最後に更新したユーザー（プロジェクト情報を変更するか、メンバーを追加することによって）と、最後に更新された日付。

この情報は、プロジェクトの[概要]タブで利用できます。

- プロジェクトバージョンでは、次の情報を提供します。
 - ・ このプロジェクトバージョンを作成したユーザーおよび作成された日付。
 - ・ このプロジェクトバージョン設定を最後に更新したユーザー、および最後に更新された日付。
 - ・ このプロジェクトバージョンにマッピングされている最新のスキャンが完了した日付と時刻。
 - ・ 最終ナレッジベース更新の日付と時刻。

この情報は、プロジェクトバージョンの[詳細]タブで利用できます。

- 目的。構成表のコンポーネントを追加または変更するときに、目的を指定できるようになりました。
- 変更。構成表にコンポーネントを追加または変更するときに、チェックボックスをオンにし、必要に応じてコンポーネントが変更された理由に関する情報を追加できます。

目的と変更ステータスをコンポーネントの条件として使用して、ポリシールールを作成できます。

ナレッジベースコンポーネントをカスタマイズする機能

構成表がプロジェクトを正確に反映するように、コンポーネントマネージャの役割を持つユーザーは次の操作を行うことができます。

- Black Duckナレッジベースコンポーネントおよび/またはBlack Duckナレッジベースコンポーネントバージョンを変更する。
- ナレッジベースコンポーネントまたはコンポーネントバージョンにメモを追加する。
- これらの変更を元に戻して、ナレッジベースデータを元の値にリセットする。
- Black Duckナレッジベースコンポーネントおよび/またはコンポーネントバージョンのステータスを定義し、承認されたコンポーネント/バージョンのみが構成表に含まれるようにする。

ポリシー管理が拡張され、コンポーネントのステータスまたはコンポーネントバージョンのステータスにポリシールールを作成できるようになりました。

直接的および推移的な依存関係

Black Duckでは、直接的な依存関係と推移的な依存関係が区別されるようになりました。このため、2つの新しいマッチタイプである直接的な依存関係と推移的な依存関係が、プロジェクトバージョンの構成表に表示されるようになりました。

リリース5.0.0より前にスキャンされたファイルについては、「ファイルの依存関係マッチ」タイプが残り

ます。

ログファイルの自動削除

30日より古いログファイルは、自動的に削除されるようになりました。

Black Duckでは、この値をカスタマイズするために、変数`DAYS_TO_KEEP_LOGS`を提供しています。

新しいジョブ

新しいジョブ`CodeLocationDeletionJob`が追加されました。このジョブは、コードの場所について、スキャンとコードの場所のマッチを削除します。

バージョン4.8.0の新機能

新しい製品名

SynopsysセキュリティポートフォリオとBlack Duck Softwareの整合性を改善するために、HubはBlack Duckに改名されました。

プロジェクトバージョンのクローンの作成

Black Duckでは、既存のプロジェクトバージョンを選択して、そのコンポーネントやセキュリティ設定のクローンを作成して新しいプロジェクトバージョンに利用できるようになりました。クローンの作成を使用すると、既存のプロジェクトバージョンで定義した分析や解決策を、新しいバージョンのベースラインとして使用することにより作業量を削減できます。

ファイルレベルのライセンスデータ

ファイルレベルのライセンスデータを取得できるように、新しいREST APIの`component-license-rest-server`が追加されました。

ユーザーガイド

Black Duckドキュメントには、Black DuckのUI使用に関する情報を載せたユーザーガイドが含まれています。

新しいジョブ

新しいジョブである`VersionBomComputationJob`が追加されました。これは、バージョン構成表の計算を管理します。

バージョン4.7.0の新機能

カスタムコンポーネント

構成表がプロジェクトを正確に反映するように、Black Duckではカスタムコンポーネントを作成できるようになりました。これにより、たとえばプロジェクトでBlack Duck KBによって追跡されていないオープンソースコンポーネントを使用している場合、構成表でBlack Duckナレッジベースにはないコンポーネントを使用できます。

Note: Black Duckナレッジベースで管理されているオープンソースコンポーネントのバージョンがない場合は、Black Duckカスタマサポートにお問い合わせください。

コンポーネントのソースを識別するために、**ソース/タイプ**という新しい列がプロジェクトバージョンレポートの`component.csv`ファイルに追加されました。この列の値は、KB_COMPONENT（Black Duckナレッジベースコンポーネントの場合）またはCUSTOM_COMPONENT（カスタムコンポーネントの場合）です。

新しいコンポーネントマネージャの役割

4.7.0で追加された新しいカスタムコンポーネント機能に対応するために、コンポーネントマネージャという新しい役割がBlack Duckに追加されました。この役割を持つユーザーは、カスタムコンポーネントを作成、編集、または削除することができます。

構成表の階層表示

Black Duckでは、ファイルシステムの関係に基づく階層表示を提供します。この表示を使用して、親コンポーネントと親コンポーネントによって取り込まれた子サブコンポーネントを示します。

構成表の階層表示では、新しいジョブHierarchicalVersionBomJobが作成され、構成表の階層バージョンが更新されました。

新しいプロジェクトフィールド

新しいオプションのフィールドがプロジェクトに追加されました。このフィールド、**アプリケーションID**を使用して、資産管理システムやアプリケーションカタログなどの外部システムに、プロジェクトの外部マッピングIDを格納することができます。

バージョン4.6.0の新機能

プロジェクト作成者の役割

新しい役割であるプロジェクト作成者がBlack Duckに追加されました。プロジェクト作成者は、プロジェクトおよびプロジェクトバージョンを作成したり、プロジェクトおよびバージョン設定を編集したりすることができます。

バージョン4.5.0の新機能

ライセンス管理

ライセンス管理の新しいオプションです。

- ライセンスのステータス、メモ、有効期限などの新しいデータ要素フィールド（カスタムライセンスとナレッジベースライセンスの両方）。
- ライセンスステータスと有効期限用の新しいポリシー管理ルール機能。

スニペットマッチ

Compliance ModuleまたはProfessional Editionのいずれかを購入されたお客様は、スニペットマッチを実行できるようになります。スニペットマッチでは、プロプライエタリファイルやプロプライエタリディレクトリに移されたファイルで使用されているオープンソースコードの断片を検出し、Black Duckナレッジ

ベースにあるオープンソースコードと一致するコードを見つけます。スニペットマッチによりスキャンオーバーヘッドが増えるため、複数のスキャンを同時に実行する企業の場合、使用モデルによっては追加のシステムリソースが必要になることがあります。スニペットマッチを有効にするには、登録キーを変更する必要があります。有効にする場合は、Black Duckの担当者にご連絡ください。担当者側で機能を有効にします。

修正ガイダンスAPI

脆弱性があるコンポーネントの修正ガイダンスを、パブリックAPIとして利用できるようになりました。

バージョン4.4.2の新機能

Black Duckバージョン4.4.2はメンテナンスリリースのため、新機能や変更された機能はありません。

バージョン4.4.1の新機能

パスワードの入力試行が10回失敗すると、ユーザーアカウントがロックアウトされます

ユーザーは、10回試行しても正しいパスワードを入力できなかった場合、アカウントが10分間ロックアウトされます。10回目の試行失敗の後、アカウントがロックされたことをユーザーに通知するメッセージがログインページに表示されます。

VulnDB情報の保持

VulnDBからBlack Duckセキュリティアドバイザリ (BDSA) への変換の一環として、お客様は、構成表で見つかったコンポーネントに関連付けられているVulnDB情報を外部のレポートデータベースに保持し、それを履歴目的で使用できます。

この情報を取得するには、次の手順に従います。

1. Black Duck 4.4.1システムにシステム管理者としてログインします。
2. **[ツール]** > **[REST API開発者ガイド]** を選択します。
3. **vuln-db-report-db-copy-rest-server** APIを選択し、**/api/vulnerabilities/vulndb-copy** APIを選択します。
4. **[試行]** をクリックします。

「202 - accepted」リターンコードが表示されます。

これにより、VulnDB情報をレポートデータベースに公開するジョブが開始されます。

5. このジョブの進捗状況を表示するには、**[管理]** > **[ジョブ]** を選択して**[ジョブ]** ページに移動し、ジョブVulndbResultsPreservationJobを検索します。

このプロセスを完了するのにかかる時間は、Black Duckインスタンス内で見つかったプロジェクトおよびコンポーネントの数に応じて異なります。データがコピーされていることを確認するには、レポートデータベースにログインし、次の表のクエリを実行します。

- vulndb_record
- vulndb_record_classification
- vulndb_record_reference_url

6. データを確認したら、Black Duckカスタマサポート担当者に連絡して、登録キーを更新してBDSAフィードを有効にするように依頼してください。

バージョン4.4.0の新機能

Black Duckセキュリティアドバイザリ (BDSA)

Black Duckセキュリティアドバイザリ (BDSA) は、Black Duckオープンソースリサーチ&イノベーションセンター (COSRI) に所属するセキュリティリサーチチームによって供給および精選されるBlack Duck専有の脆弱性データフィードです。BDSAは、National Vulnerability Database (NVD) を通じて得られる対応範囲よりも、広範な脆弱性について深い対応範囲を実現し、重大度、影響、攻撃される可能性のメトリック、実行可能な修正のガイダンスなど、脆弱性の詳細な洞察を提供しています。BDSAは、Black Duck Professionalの新しいお客様とBlack Duck Security Moduleの新しいお客様が利用できます。

詳細については、Customer Successマネージャにお問い合わせください。

暗号文を伴うコンポーネントの表示機能

Black Duckは、暗号化アルゴリズムがあるコンポーネントバージョンを判定する場合に役立つ情報を提供できるようになりました。

- コンポーネントダッシュボードとコンポーネントバージョンの[構成表] ページで利用できる暗号文フィルタは、暗号化を伴うこれらのコンポーネントバージョンを判定します。
- [コンポーネントバージョン] ページの新しい[暗号文] タブには、暗号化アルゴリズムがあるあらゆるコンポーネントバージョンの説明、ホームページのURL、実行者、ライセンス、および特許情報など詳細が表示されます。
- 暗号化アルゴリズムがあるあらゆるコンポーネントバージョンには、新しい暗号文アイコン (🔒) が[構成表] ページに表示されます。

Note: 既存の構成表に手動で追加されたコンポーネントは暗号文情報を表示しますが、従来の構成表では、暗号文データを表示するために再スキャンが必要になることがあります。

APIキーを通じたREST APIへのアクセス

Black Duckは、Black Duck APIにアクセスするための「トークン」を1つ以上生成できる機能を提供しています。これらのトークンは、統合構成 (Jenkinsや、スキャンクライアントCLI用のものなど) で使用されているユーザー名/パスワードの認証情報の使用に代えることが想定されています。アクセストークンを使用すると、セキュリティの侵害が生じた場合に、ユーザーの認証情報 (SSOまたはLDAP認証情報である可能性があります) が直接危殆化されることはありません。

新しいスキャンサービス

スケーラビリティを向上させるため、新しいスキャンサービスが追加されました。

バージョン4.3.1の新機能

エンドユーザーライセンス契約

Black Duckに初めてアクセスするときに登録およびエンドユーザーライセンス契約が表示されるようになりました。Black Duckを使用するには、条件に同意する必要があります。

バージョン4.2.0の新機能

ライセンス管理

Black Duckでカスタムライセンスを作成する機能が提供されるようになりました。構成表内のコンポーネント用に使用するライセンスがBlack Duckナレッジベースから提供されていないと判断した場合、この機能を使用できます。

ライセンス管理を支援するために、新しいライセンス管理ページがBlack Duckに追加されました。このページには、作成したライセンスと、Black Duckナレッジベースからのライセンスが表示されます。このページから、任意のライセンスのライセンステキストを表示し、特定のライセンスが使用されているコンポーネント/サブプロジェクトを表示することができます。

新しいライセンスマネージャの役割

4.2.0で追加された新しいライセンス管理機能に対応するために、ライセンスマネージャの役割がBlack Duckに追加されました。この役割を持つユーザーは、カスタムライセンスのレビュー、作成、編集、削除を行うことができます。新しい[ライセンス管理] ページは、新しいライセンスマネージャの役割を持つユーザーにのみ表示されます。

OpenShiftのサポート

Black Duckバージョン4.2.0は、PostgreSQLバージョン9.6.xと外部データベースを使用するOpenShift Enterprise 3.5をサポートします。

詳細については、Black Duckサポートにお問い合わせ ください。

構成表を比較する機能

Black Duckが、プロジェクトの2つの異なるバージョンの構成表を比較できる機能を提供するようになりました。比較によって、構成表で発生したコンポーネントの調整（新規、削除、調整されたコンポーネント（使用法、ライセンス、またはバージョンが変更されたコンポーネント））と、セキュリティ上のリスクに対する関連の変更が示されます。

拡張された脆弱性データ

Black Duckは、セキュリティ脆弱性に関して共通脆弱性評価システム（CVSS）バージョン3.0スコアおよびCommon Weakness Enumeration（CWE）情報をレポートするようになりました。

Black Duckセッションタイムアウト値の設定機能

新しいプロパティHUB_WEBAPP_SESSION_TIMEOUTがhub-proxy.envファイルに追加され、セッションタイムアウト値を設定できるようになりました。

バージョン4.1.1の新機能

SAMLのIDPメタデータXMLファイルのサポート

Black Duckは、xmlファイルを使用してIdentity Providerメタデータを供給する機能をサポートするようになりました。

バージョン4.1.0の新機能

Kubernetesのサポート

Black Duckバージョン4.1.0では、Kubernetesがサポートされます。詳細については、Black Duckサポートにお問い合わせ ください。

バージョン4.0.0の新機能

概要ダッシュボード

新しい概要ダッシュボードがBlack Duckに追加されました。このダッシュボードから、表示する権限があるプロジェクト全体の健全性を確認し、問題のある領域を確かめることができます。このダッシュボードを使用するとビジネスに不可欠な情報を表示できるので、注意する必要がある領域をすばやく評価することができます。

外部のPostgreSQLデータベース

Black Duckでは、外部PostgreSQLデータベースとしてAmazon Relational Database Service (RDS) を使用できるようになりました。

修正ガイダンス - ベータ版

Black Duckで新しいベータ機能を使用できるようになりました。構成表内の、脆弱性のあるコンポーネント向けに、Black Duckでは、利用可能な他のコンポーネントバージョンに関するガイダンス、および構成表で使用されているコンポーネントバージョンに影響を与えるセキュリティ脆弱性を修正するバージョンがあるかどうかに関するガイダンスが提供されます。この情報を使用して、セキュリティ脆弱性を修正する方法を決定することができます。

クロスサイトリクエストフォージェリ

Black Duckバージョン4.0.0では、クロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) 試行に対するセキュリティが向上しました。

シングルサインオンのサポートを実現するためのSAML

Black Duckでは、Multi-Factor Authentication (MFA) 、シングルサインオン (SSO) 、および他の機能を使用するためのSecurity Assertion Markup Language (SAML) 認証プロトコルがサポートされるようになりました。

ウェブサーバーの構成設定

次のウェブサーバー設定を行うことができます。

- ホストポート
- Ipv4/ipv6

デフォルトのユーザーランディングページ

目的のダッシュボードをすばやく表示するため、ログイン時に表示されるダッシュボードページは、前回ログアウトする前に最後に表示したメインダッシュボード（プロジェクト、コンポーネント、セキュリティ、または概要）によって異なります。

バージョン3.7.0の新機能

新しいBlack Duck Dockerアーキテクチャ

Black Duckの新しいアーキテクチャが利用可能になりました。この新しいアーキテクチャは、Black Duckの「Docker化」によって構成され、さまざまなコンポーネントをコンテナ化して、他のオーケストレーションツールで個々のコンテナをすべて管理できるようにします。このリリースでサポートされているオーケストレーションツールは次のとおりです。

- Docker Compose
- Docker Run
- Docker Swarm

このバージョンのBlack Duckは、新規インストールまたは、古いアーキテクチャで構成される前バージョンからのアップグレードとしてインストールできます。

Black Duck Dockerの画像は、Docker Store Black Duck (<https://hub.docker.com/u/blackducksoftware/>) リポジトリからダウンロードできます。

オーケストレーションファイルは、<https://github.com/blackducksoftware/hub/raw/master/archives/hub-docker-3.7.0.tar>にあります。

『Hubインストールガイド (Docker)』では、インストール、移行、およびアップグレードのプロセスについて説明します。

問題追跡機能

Black Duck UIでは、新しい[問題]タブを使用できます。このタブには、問題追跡製品による監視に応じて、プロジェクトバージョン関連の問題が表示されます。現在、この機能はBlack Duck-JIRAプラグイン（バージョン3.3.0以上）を使用してサポートされています。

2018. 11. 0で変更された機能

複数のコンポーネントのバージョン/サブプロジェクトをレビューする機能

構成表レビュープロセスが一括レビューをサポートするようになり、複数の項目を一度にレビューできます。

証明書認証なしでの外部PostgreSQLインスタンスの使用をサポート

Black Duckで、外部PostgreSQLデータベースのSSLを使用した証明書認証、ユーザー名/パスワード認証、のいずれかまたはその両方をサポートするようになりました。

ライセンス管理の拡張機能

ライセンス管理テーブルでライセンスファミリーを選択し、そのライセンスファミリーの定義とリスクプロファイルを表示できるようになりました。

hub-proxy.envファイルの名前の変更

ファイルが管理する構成オプションが分かりやすいように、hub-proxy.envファイルの名前がblackduck-config.envに変更になりました。

2018. 11. 0にアップグレードする場合は、旧バージョンのhub-proxy.envファイルの内容を新バージョンのblackduck-config.envファイルにコピーする必要があります。

Dockerイメージファイルの名前の変更

- HubからBlack Duckへの変更にもない、すべてのイメージの名前が変更になりました。
- サードパーティのDockerイメージを共有、再利用しやすいように、次のイメージに対する番号付けシステムが変更になり、1. 0. 0から開始されるようになりました。
 - cfssl
 - logstash
 - nginx
 - postgres
 - solr
 - zookeeper

APIの拡張機能

- Black Duckの登録情報用のREST API、registration-rest-serverが新たに追加されました。
- 新しいREST API、file-level-data-rest-serverが追加されました。ファイルレベルの著作権情報とファイルレベルのライセンスデータを返します。
- ライセンスファミリー情報用の新しいREST API、license-family-rest-serverが追加されました。
- REST API、component-rest-serverにフィルタ機能が追加されました。
- REST API、license-rest-serverにフィルタおよびライセンスの責務機能が追加されました。
- REST API、notification-rest-serverにフィルタ機能が追加されました。

今回のリリース以降、policy-rule-rest-server APIの最初のバージョンはサポートされなくなるので注意してください。

dependencyScanオプション

Black Duck 5.0.0リリースノートに記載されているように、`--dependencyScan`オプションが署名スキャナのコマンドラインから削除されました。

日本語

UI、オンラインヘルプ、およびリリースノートのバージョン5.0.0が日本語にローカライズされました。

5.0.2で変更された機能

Black Duckバージョン5.0.2はメンテナンスリリースのため、新機能や変更された機能はありません。

5.0.1で変更された機能

Black Duckバージョン5.0.1はメンテナンスリリースのため、新機能や変更された機能はありません。

5.0.0で変更された機能

カスタムコンポーネント管理の機能拡張

カスタムコンポーネント管理に次の機能拡張が行われました。

- カスタムコンポーネント/バージョンにタグを追加する機能。
- カスタムコンポーネント/バージョンにメモを追加する機能。
- カスタムコンポーネント/バージョンが最後に変更された日付と、最後に変更したユーザーがコンポーネント管理テーブルに追加されました。
- カスタムコンポーネント/コンポーネントのバージョンのステータスを選択する機能。デフォルトでは、カスタムコンポーネント/バージョンには[未レビュー]ステータスが設定されています。

ポリシー管理が拡張され、カスタムコンポーネントのステータス/バージョンステータスにポリシールールを作成できるようになりました。

運用リスクの機能拡張

運用リスクをより適切に管理するために、次の機能拡張が行われました。

- 過去12か月間のコミットの数、最後のコミットの日付、およびコントリビュータの数が、ナレッジベースのコンポーネントバージョンページに追加されました。
- ポリシールールが拡張され、ポリシールールを作成する際、過去1年間のコミットおよび過去1年間のコントリビュータがコンポーネントの条件として含められるようになりました。

SSOでサポートされるローカルログアウト


シングルサインオン用のSAMLを設定する際、Black Duckでローカルログアウトがサポートされるようになりました。

このオプションが有効になっている場合、Black Duckをログアウトすると、IDPのログインページが表示されます。

APIの拡張機能

- 構成表コンポーネントフィルタを取得するために、aggregate-bom-rest-serverが拡張されました。
- コンポーネントの承認ステータスとソースフィルタを取得するために、新しいREST API、component-filter-rest-serverが追加されました。
- コンポーネントバージョンの承認ステータスを取得するために、新しいREST API、component-version-filter-rest-serverが追加されました。
- ユーザーグループに割り当てられているプロジェクトを取得するために、project-assignment-rest-server APIが拡張されました。
- プロジェクトマッピングを管理するために、新しいREST API、project-mapping-rest-serverが追加されました。
- プロジェクトタグをサポートするために、tag-rest-server APIが拡張されました。
- code-location-rest-server APIのエンドポイントには「型」フィールドがありましたが、これはリリース5.0.0で削除されました。
- コードの場所のURIの形式が変更されました。以前はファイルパスでしたが、現在はUUIDです。これらのURIを受け入れるまたは返す、すべてのAPIが影響を受けます。

構成表の変更アイコン

変更の検出を容易にするために、このアイコン () は構成表が変更されたことを示すようになりました。アイコンの上にマウスを置くと、変更に関する詳細情報が表示されます。

ライセンス管理ステータスの変更

[条件付きで承認済み] ライセンスステータスが[制限付き承認]に変更されました。

この条件を使用するすべてのポリシールールは、自動的に更新されました。

日本語

UI、オンラインヘルプ、およびリリースノートのバージョン4.8.1が日本語にローカライズされました。

4.8.3で変更された機能

Black Duckバージョン4.8.3はメンテナンスリリースのため、新機能や変更された機能はありません。

4. 8. 2で変更された機能

Black Duckバージョン4. 8. 2はメンテナンスリリースのため、新機能や変更された機能はありません。

4. 8. 1で変更された機能

Black Duckバージョン4. 8. 1はメンテナンスリリースのため、新機能や変更された機能はありません。

4. 8. 0で変更された機能

プロジェクトバージョンの新しいフェーズ

「プレリリース」が、プロジェクトバージョンの新しいフェーズとして追加されました。このフェーズは、開発済みだがまだリリースされていないプロジェクトに使用できます。

日本語

UI、オンラインヘルプ、およびリリースノートのバージョン4. 7. 0が日本語にローカライズされました。

4. 7. 2で変更された機能

階層構成表

階層構成表はデフォルトで無効になっています。この機能を有効にするかどうかを制御する新しい環境変数、`HIERARCHICAL_VERSION_BOM`が追加されました。

4. 7. 1で変更された機能

コンポーネントダッシュボードのフィルタ

フィルタが適用されたときの、コンポーネントダッシュボードの動作が変更されました。高度なフィルタを使用するか、またはリスクグラフを使用して値を選択することによって、リスクでフィルタにかけることを選択した場合、次のようになります。

- リスクグラフには、フィルタカテゴリで値が選択されていない場合は0の値が表示されます。
- その他のリスクカテゴリを表す値には、選択したフィルタに対応する値が表示されます。

たとえば、高リスクライセンスのコンポーネントのみを表示するようにコンポーネントダッシュボードをフィルタにかけるように選択した場合、ライセンスリスクが中、低、なしのリスクグラフには0の値が表示され、セキュリティ上のリスクと操作上のリスクについてのリスクグラフには、高リスクライセンスのコンポーネントに対応する値が表示されます。

4. 7. 0で変更された機能

ポリシーの上書きまたは上書きの削除にコメントを追加する機能

Black Duckでは、ポリシーの上書きまたは上書きの削除にコメントを追加する機能をサポートするようになりました。

構成表比較の強化

構成表比較機能が強化され、プロジェクト間で構成表を比較できるようになりました。

スニペットの一括編集機能

スニペットが強化され、[ソース]タブでスニペットの一括編集が可能になりました。

APIの拡張機能

REST APIに、次の改良が加えられました。

- component-rest-server APIとcomponent-version-rest-server APIが拡張され、カスタムコンポーネントを管理できるようになりました。
- 構成表を比較するために、新しいREST API、project-version-bom-comparison-rest-serverを追加しました。

Protex BOMツール

レガシー製品からBlack Duckの最新バージョンにユーザーを移行するための継続的な取り組みとして、Protex BOMをインポートする[ツール]ページのリンクが、Black Duckの4.7.0以降のバージョンから削除されています。Protex BOMをインポートするには、次のURLを指定してProtex BOMツールzipファイルをダウンロードします: <https://<Black Duck hostname>/download/scan.protex.cli.zip>

ジョブへの変更

ProtexBomJobは、次のジョブに置き換えられました。

- GraphCompletionJob - 他のスキャン/グラフジョブが終了するまで待機してから、ScanCompletedJobを開始します。
- GraphInitializationJob - Black Duckにアップロードされた各スキャンドキュメントを結合して正規化します。
- ScanCompletedJob - コードの場所をプロジェクトにマップし、ScanAutoBomJobを開始します。
- ScanMappingJob - コンポーネント識別子をBlack Duck識別子にマップします。
- ScanSignatureJob - スキャンしたすべてのファイルの署名を計算します。

日本語

UI、オンラインヘルプ、およびリリースノートのバージョン4.6.1が日本語にローカライズされました。

4.6.2で変更された機能

Black Duckバージョン4.6.2はメンテナンスリリースのため、新機能や変更された機能はありません。

4.6.1で変更された機能

Black Duckバージョン4.6.1はメンテナンスリリースのため、新機能や変更された機能はありません。

4.6.0で変更された機能

Docker対応バージョン

Black Duckは、Dockerバージョン17.03.xには対応しなくなります。Docker対応バージョンは次のとおりです。

- 17.06.x
- 17.09.x
- 17.12.x
- 18.03.x

暗号に関する拡張機能

暗号機能に次の機能拡張が行われました。

- **[暗号]** タブに、アルゴリズムID、アルゴリズム名、キーの長さタイプ、キーの長さの情報が表示されるようになります。
- 新しいファイル`crypto.csv`がプロジェクトバージョンレポートに追加されます。このファイルには、プロジェクトバージョンの各コンポーネントの暗号情報が記載されます（アルゴリズムID、アルゴリズム名、キーの長さタイプ、キーの長さなど）。

ライセンス管理の拡張機能

ライセンスステータスフィルタが[ライセンス管理] ページに追加されました。ステータスの値は次のとおりです。

- 未レビュー
- 承認済み
- 拒否
- 条件付きで承認済み

APIの拡張機能

REST APIに、次の改良が加えられました。

- タグ管理用に新しいREST APIの`tag-rest-server`が追加されました。

日本語

UI、オンラインヘルプ、およびリリースノートのバージョン4.4.1が日本語にローカライズされました。

4.5.1で変更された機能

Black Duckバージョン4.5.1はメンテナンスリリースのため、新機能や変更された機能はありません。

4.5.0で変更された機能

ユーザーの役割の拡張

Black Duckバージョン4.5.0にユーザーの新しい役割が追加されます。ユーザーの役割のマトリックスが新しいユーザーの役割で拡張され、ユーザー、プロジェクトおよび権限の設定や管理をより詳細に且つ柔軟に行えるようになります。

新しい認証サービス

Black Duck 4.5.0の新しい認証サービスでは、新しいDockerコンテナが追加されます。これにより、追加のリソースが提供され、認証を手渡します。

4.4.2で変更された機能

Black Duckバージョン4.4.2はメンテナンスリリースのため、新機能や変更された機能はありません。

4.4.1で変更された機能

Black DuckスキャンクライアントのNTLMサポート

Black DuckスキャンクライアントがNTLM認証をサポートするようになりました。

ログファイルに含まれるユーザーログイン情報

ログに、成功したログイン、失敗したログイン、およびアカウントロックアウトに関する情報がユーザー名ごとに格納されるようになりました。

National Vulnerability Databaseウェブページへのリンクが脆弱性の詳細のページに追加されました

脆弱性の詳細のページに、CVEが関連付けられている脆弱性についてNVDによって維持されているCVEウェブページへのリンクが用意されました。

4.4.0で変更された機能

ライセンス管理の機能強化

Black Duckには、ライセンスマネージャでナレッジベースライセンスのライセンスファミリとテキストをグローバルに変更する機能が提供されました。ライセンスマネージャは、これらの変更されたナレッジベースライセンスを元の値に復元することもできます。

ハードウェア要件の変更

パフォーマンスを向上させるため、Black Duckのインストールに必要な最小CPU数が4つから5つに増やされました。

Black Duckスキャナで依存関係の検出がオプションになりました

署名スキャナで依存関係の検出がオプションになりました。コマンドラインバージョンの署名スキャナで

は、宣言された依存関係のスキャンを有効にするには、新しい`--dependencyScan`オプションを使用します。

Black Duckは、`--dependencyScan`オプションを使用する代わりにBlack Duck Detectを使用して宣言された依存関係を検出することをお勧めします。

SAMLの機能強化

グループの同期化を選択できるようになりました。これにより、ログイン時にIDPからのグループがBlack Duckに作成され、ユーザーはそれらのグループに割り当てられます。

プロジェクトバージョンレポートでカラム名が変更されました

Black Duck 4.4.0よりも前のプロジェクトバージョンレポートのcomponents.csvファイルには、「取得元ID」というタイトルのカラムが2つありました。4.4.0より、2番目の「取得元ID」カラムは「取得元名ID」という名前に変更されました。

APIの拡張機能

REST APIに、次の改良が加えられました。

- APIキーを通じてAPIを使用するための新しいREST APIであるapi-token-rest-serverを追加しました。
- 暗号文情報を取得するようにcomponent-version-rest-server APIを改善しました。
- スキャン情報を取得して書き込む新しいREST APIであるscan-service-proxy-rest-serverを追加しました。このREST APIは、scan-rest-server REST APIに代わるものです。
- オートコンプリート機能をsearch-rest-server APIから削除しました。

レポートデータベースの機能強化

レポートデータベースでは、related_vuln_dbという新しいカラムがコンポーネントの脆弱性の表に追加されました。このカラムにより、BDSAの、関連のあるCVE脆弱性にアクセスできます。

Docker Run

Docker Runサポートは非推奨になりました。

日本語

UI、オンラインヘルプ、およびリリースノートのバージョン4.3.1が日本語にローカライズされました。

Black Duckの統合

使用可能なBlack Duckの統合については、GitHubウェブサイト (<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>) にアクセスしてください。

[ジョブ]ページの機能強化

[ジョブ]ページに、リンクを示す[関連先]が含まれるようになりました。これにより、ジョブが何と関連があるかを判断できます。

4.3.0で変更された機能


コードの場所をスキャンに変更

機能をより正確に反映するために、Black Duck UIのメニューとテキストが[コードの場所]から[スキャン]に変更されました。

Note: プロジェクトバージョンレポートについて、`codelocations.csv`ファイルが`scans.csv`ファイルに変更されました。このファイルでは、最初の列が「コードの場所ID」から「スキャンID」に変更され、タブの名前が「`codelocations`」から「`scans`」に変更されました。

ポリシー管理の機能強化

ポリシー管理に次の機能拡張が行われました。

- ポリシールールをコピーする機能が提供されました。
- ポリシールールを個別に上書きする機能が提供されました。
- ポリシー違反アイコン（）の上にカーソルを置くと、違反した個別のポリシールールが一覧表示されるようになりました。
- コンポーネントのリリース日に基づいてポリシールールを作成する機能が追加されました。
- [ポリシー管理] ページにフィルタが追加され、有効または無効なポリシールールのみを表示を選択できます。デフォルトで有効なルールが表示されます。
- ポリシー違反通知に詳細が追加されました。

グループ管理の機能強化

グループに割り当てられたプロジェクトをすばやく表示するために、[グループ名] ページに、このグループが割り当てられているプロジェクトが一覧表示される[グループプロジェクト] セクションが含まれるようになりました。システム管理者の役割を持っているユーザーは、このページを使用して、グループのプロジェクトを追加または削除することができます。

ユーザーの管理の機能強化

- ユーザーに割り当てられた役割をすばやく表示するために、各ユーザーの役割が[ユーザーの管理] ページに一覧表示されるようになりました。
- ユーザーに割り当てられたプロジェクトを簡単に表示できるように、[ユーザー名] ページに、ユーザーに割り当てられたプロジェクトを表示する[プロジェクトアクセス] セクションが含まれるようになりました。

[プロジェクトバージョン] ページに追加されたフェーズフィルタ

興味のあるプロジェクトのバージョンを表示しやすくするために、[プロジェクトバージョン] ページにフィルタが追加され、ページに表示されるバージョンをリリースフェーズ別にフィルタにかけることができました。

[スキャン] ページの機能強化

[スキャンサイズ] と [マップ先:] 列で並べ替える機能が[スキャン] ページに追加されました。

同一のキュースキャンをスキップ

自動化により、同じコードに対する多くのスキャンをBlack Duckにプッシュすることができます。これらのスキャンはキューに入れられます。これが発生すると、開始していないスキャンがスキップされ、最新のスキャンを迅速に実行できるようになります。

APIの拡張機能

REST APIに、次の改良が加えられました。

- 通知の状態を更新するようにnotification-rest-server APIが改良されました。
- 有効なポリシールールを取得するための新しいREST API policy-rule-filter-rest-serverが追加されました。
- 現在のユーザーを取得するようにuser-rest-server APIが改良されました。
- グループ内のグループとユーザーを管理するためにuser-group-rest-server APIが改良されました。グループの作成、更新、削除や、グループのユーザーの追加または削除を実行できます。

インストールガイド

マニュアルを使いやすくするため、以下のインストールガイドが用意されました。

- *Docker Swarm*を使用したHubのインストール
- Docker Composeを使用したHubのインストール
- Kubernetesを使用したHubのインストール

日本語

UI、オンラインヘルプ、およびリリースノートのバージョン4.2.0が日本語にローカライズされました。

Black Duckの統合

使用可能なBlack Duckの統合については、GitHubウェブサイト (<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>) にアクセスしてください。

ツールページの再編成

ツールページのレイアウトを変更しました。

- 元のスキャナおよびCLIをダウンロードするには、[CLI]をクリックし、Linux、Mac OS X、またはWindowsバージョンの署名スキャナをダウンロードします。
- スキャナ2.0をダウンロードするには、[デスクトップ]をクリックし、Mac OS XまたはWindowsバージョンの署名スキャナをダウンロードします。

ユーザビリティの向上

Black Duckでは、さまざまなユーザビリティの向上が行われ、アプリケーション全体での整合性を向上し、使いやすさを改善しています。

4.2.0で変更された機能

PostgreSQLのバージョン

Black Duckバージョン4.2.0の場合、現在サポートされているPostgreSQLのバージョンは9.6.xです。これは、Black DuckのPostgreSQLコンテナに付属のバージョンです。独自のPostgreSQLインスタンスの実行を選択した場合、PostgreSQLバージョン9.6.xを使用して、Black Duckバージョン4.2.0との互換性を確保する必要があります。

以前のバージョンのBlack Duckからアップグレードする場合、バージョン4.2.0にアップグレードする前に、移行スクリプトを実行する必要があります。詳細については、『*Black Duck Hubインストールガイド*』を参照してください。

LDAP構成

証明書交換を手動で管理する必要がなくなりました。現在は、Black Duck UIを使用して、LDAPサーバーとBlack Duckの間の証明書交換を管理することができます。

レポートに含まれるサブプロジェクト情報

サブプロジェクトに対する権限を持っているユーザー用のサブプロジェクト情報がレポートに含まれるようになりました。

ポリシーールの機能強化

コンポーネントのレビューステータスに基づいてポリシーールを作成できるようになりました。

日本語

UI、オンラインヘルプ、およびリリースノートのバージョン4.1.0が日本語にローカライズされました。

APIの拡張機能

REST APIに、次の改良が加えられました。

- license-rest-server APIが改良され、ライセンスの更新と削除、ライセンステキストの更新を行う機能を提供します。
- aggregate-bom-rest-server APIが改良され、構成表コンポーネントが追加されました。
- vulnerability-rest-server APIが改良され、Common Weakness Enumeration (CWE) 情報を取得します。
- REST API (meta-rest-server) が追加され、Black Duckの現在のバージョンを提供します。

Black Duckの統合

次のBlack Duckの統合がGitHub Webサイト (<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>) から利用可能になりました。

- Black Duck Artifactoryプラグイン
- Black Duck Bambooプラグイン
- Black Duck Gradleプラグイン

- Black Duck Eclipseプラグイン
- Black Duck Jenkinsプラグイン
- Black Duck JIRAプラグイン
- Black Duck Mavenプラグイン
- Black Duck NuGetプラグイン
- Black Duck PIPプラグイン
- Black Duck SBTプラグイン
- Black Duck Team Cityプラグイン
- Black Duck Team City Foundation Serverプラグイン
- Black Duck Visual Studioプラグイン
- Black Duck電子メールエクステンション
- Black Duck Docker Inspector
- Black Duck Detect

Note: 最新リリースバージョン番号を含むBlack Duckの統合製品の詳細については、Black Duck統合ドキュメントのWebサイト (<https://blackducksoftware.atlassian.net/wiki/spaces/INTDOCS/overview>) を参照してください。

ユーザビリティの向上

Black Duckでは、さまざまなユーザビリティの向上が行われ、アプリケーション全体での整合性を向上し、使いやすさを改善しています。

4.1.2で変更された機能

Black Duckからのログアウト

Black Duckは、SP-Initiated IdPログアウト (SLO) をサポートしません。SSOユーザーがBlack Duckからログアウトしたときに、Black Duckから正常にログアウトしたことを通知するログアウトページが表示されるようになりました。このログアウトページには、Black Duckに再ログインするためのリンクが含まれ、ユーザーがBlack Duckに正常に再ログインするために資格情報を提供する必要がありません。

4.1.0で変更された機能

新しい署名スキャナ 2.0 - ベータ版

Black Duck UIの[ツール]ページから、ベータ版の署名スキャナ 2.0を入手できるようになりました。

APIの拡張機能

REST APIに、次の改良が加えられました。

- パブリックな構成表APIにレビューステータスが追加されました。
- パブリックなコンポーネント構成表APIにポリシーステータスが追加されました。

- user-group-rest-server APIが改良され、役割を追加、編集、および削除できるようになりました。
- REST API (project-assignment-rest-server) が追加され、プロジェクトからユーザーとユーザーグループを割り当てたり削除したりできるようになりました。
- component-version-rest-serverおよびaggregate-bom-rest-serverの各APIが改良され、コンポーネントに実際のライセンステキストを提供できるようになりました。

ドキュメントコンテナ

Black Duckのドキュメントがコンテナで管理されるようになりました。このため、ドキュメントを迅速に更新することができます。

LDAPのログ

Black Duckのログファイルに、LDAPの有効/無効が示されるようになりました。

PostgreSQLのバージョン

Black Duckバージョン4.1.0の場合、現在サポートされているPostgreSQLのバージョンは9.4.11です。これは、Black DuckのPostgreSQLコンテナに付属のバージョンです。独自のPostgreSQLインスタンスの実行を選択した場合、PostgreSQLバージョン9.4.11を使用して、Black Duckバージョン4.1.0との互換性を確保する必要があります。

4.1.0以降のバージョンのBlack Duckを使用する場合、アップグレードする前に、更新後のPostgreSQLバージョンの要件があるかどうかを『Black Duckリリースノート』で確認してください。

Black Duckの統合

次の統合Black Duck合の新しいバージョンがGitHub Webサイト (<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>) から利用可能になりました。

- Black Duck Artifactoryプラグイン
- Black Duck Bambooプラグイン
- Black Duck Gradleプラグイン
- Black Duck Jenkinsプラグイン
- Black Duck JIRAプラグイン
- Black Duck Mavenプラグイン
- Black Duck NuGetプラグイン
- Black Duck PIPプラグイン
- Black Duck Team Cityプラグイン
- Black Duck Team City Foundation Serverプラグイン
- Black Duck Eclipseプラグイン
- Black Duck Visual Studioプラグイン
- Black Duck電子メールエクステンション
- Black Duck Docker Inspector
- Black Duck SBTプラグイン

Note: 最新リリースバージョン番号を含むBlack Duckの統合製品の詳細については、Black Duck統合ドキュメントのWebサイト (<https://blackducksoftware.atlassian.net/wiki/spaces/INTDOCS/overview>) を参照してください。

4.0.0で変更された機能

通知ファイルレポートの改良点

通知ファイルレポートの作成を容易にするために、Black Duckでは、通常は各OSSコンポーネントで変更されるライセンスの実際のライセンステキストにレポートが表示されるようになりました。現在、Black Duckでは、MIT、さまざまなBSD、およびナレッジベースのトップコンポーネントであるISCライセンスについてのみ、実際のライセンステキストがお客様の使用法に基づいて表示されます。

新しいBlack Duckモジュール

新しいモジュールであるOSS通知レポートが利用可能になり、既存のOSS属性モジュールが変更されました。通知ファイルレポートは、ライセンスコンプライアンス機能の一部である、この新しいOSS通知レポートモジュールに含まれています。OSS通知レポートモジュールがない場合、通知ファイルレポートは使用できなくなります。

レポートデータベースの改良点

レポートデータベースから、ポリシーの承認ステータス、使用法、およびコンポーネントのマッチタイプにアクセスできるようになりました。

署名スキャナコマンドラインの改良点

- 対応するスキャンコンテナ (.json) ファイルがない場合でも、`dryRunReadFile`パラメータを使用して、構成表 (.jsonld) ファイルを個別にアップロードできるようになりました。
- `password`パラメータはサポート対象外になりました。`password`パラメータに引数を指定した場合、スキャンは完了しません。代わりに、`BD_HUB_PASSWORD`環境変数とBlack Duckサーバーパスワードを設定する必要があります。

スキャンコンテナの改良点

Dockerイメージ (`scan.docker.sh`) のスキャンに使用するスクリプトが改良され、パッケージマネージャレベルでの検査が可能になりました。また、自動更新機能もスクリプトに追加されているため、このスクリプトの最新バージョンを簡単に取得できます。

Note: このスクリプトで使用可能になった自動更新機能を利用するには、ホワइटリストまたは他の手段でgithub.comドメイン (`blackducksoftware.github.com`) に接続できることを確認する必要があります。

商用コンポーネント

商用コンポーネントが検索結果で識別されるようになりました。

基本認証のサポート

Black Duckで、プロキシの基本認証がサポートされるようになりました。

スキャンの改良点

拡張マッチングアルゴリズムと新しいBlack Duck KBデータエレメントが追加され、マッチングの精度が向上し、誤検出が少なくなりました。この機能は、多くのタイプのスキャンに適用されますが、Debianパッケージで特に有効です。

日本語

UI、オンラインヘルプ、およびリリースノートのバージョン3.7.0が日本語にローカライズされました。

Black Duckの統合

次の統合Black Duck合の新しいバージョンがGitHub Webサイト (<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>) から利用可能になりました。

- Artifactoryプラグインバージョン3.0.0以降
- Bambooプラグインバージョン3.1.0以降
- Gradleプラグインバージョン5.0.1以降
- Jenkinsプラグインバージョン2.2.1以降
- JIRAプラグインバージョン3.3.1以降
- Mavenプラグインバージョン2.0.1以降
- NuGetプラグインバージョン1.1.0以降
- Pipプラグインバージョン1.1.0以降
- Team Cityプラグインバージョン3.1.0以降

ユーザビリティの向上

Black Duckでは、さまざまなユーザビリティの向上が行われ、アプリケーション全体での整合性を向上し、使いやすさを改善しています。

3.7.0で変更された機能

レポートデータベースの改良

レポートデータベースでは、コンポーネントの脆弱性データにアクセスできるようになりました。レポートデータベースには、コンポーネントバージョンが無視されるかどうかに関するデータも含まれます。

ポリシーールの機能強化

コンポーネントバージョンのポリシーールについて、[等しくない]と[含まない]演算子が追加されました。特定のバージョンのコンポーネントが使用されていない場合にポリシー違反をトリガーするポリシーールを作成するなど、これらの演算子により、ホワイトリストポリシーールをより簡単に作成できるようになりました。

役割「コードスキャナ」

役割「コードスキャナ」が変更されました。この役割のみを持っているユーザーは、コードの場所のスキャンに関連付けられている構成表を参照できなくなりました。

APIの拡張機能

REST APIに、次の改良が加えられました。

- コンポーネントバージョンの問題を追加、更新、および削除するためのREST API (bom-component-issue-rest-server) を追加しました。

Black Duckの統合

次の続Black Duck合の新しいバージョンがGitHub Webサイト (<https://github.com/blackducksoftware/integration-all/>) から利用可能になりました。

- Eclipseプラグインバージョン1.0.0以降
- Gradleプラグインバージョン5.0.0以降
- JIRAプラグインバージョン3.3.0以降
- NuGetプラグインバージョン1.0.0以降
- Pipプラグインバージョン1.0.0以降
- SBTプラグインバージョン1.1.0以降
- Team Cityプラグインバージョン3.0.2以降
- Visual Studioプラグインバージョン1.0.0以降

日本語

UI、オンラインヘルプ、およびリリースノートのバージョン3.6.0が日本語にローカライズされました。

ユーザビリティの向上

Black Duckでは、さまざまなユーザビリティの向上が行われ、アプリケーション全体での整合性を向上し、使いやすさを改善しています。

2018. 11. 0で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- IE11でUIを表示すると、[バージョンの作成] ボタンがプロジェクト名ページに表示されなかった問題が修正されました。
- [ポリシールールの編集] ダイアログボックスで[キャンセル]を選択しても、ポリシールールへの編集が保存される問題が修正されました。
- 構成表を印刷しても、最初の1000コンポーネントしか印刷されない問題が修正されました。
- [グループを追加] ダイアログボックスで、[アクティブのみ] チェックボックスを指定しても、グループにフィルタがかからない問題が修正されました。
- IE11でUIを表示すると、[設定] タブが[プロジェクトのバージョン名] ページに表示されない問題が修正されました。
- カスタムコンポーネントを検索しても、すべてのコンポーネントを表示するオプションが表示されない問題が修正されました。
- 修正更新ガイダンス機能が推奨する最新の修正済みコンポーネントのバージョンが、セキュリティ脆弱性を含むバージョンよりも古いバージョンになる問題が修正されました。
- プロジェクトコードスキャナの役割と構成表マネージャの役割を持つユーザーが、UIを使用するとbdioファイルをアップロードできない問題が修正されました。
- UIで論理的でないポリシールールの作成を防止できない問題が修正されました。
- ポリシールールに[次のコンポーネント] 条件を複数選択すると、コンポーネントのバージョンが[ポリシーの作成] ダイアログボックスにハイパーリンクとして表示される問題が修正されました。
- スニペットトリアージビューとソースビューに表示される日本語が文字化けする問題が修正されました。
- 構成表のライセンスをユーザーが編集できない問題が修正されました。
- Black Duck リリース4.5以降でコンテナをチェックするには、Black DuckでIPv6を有効にする必要があった問題が修正されました。
- JDBC接続エラーのためスキャンが失敗する問題が修正されました。

5. 0. 2で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- Black Duck サーバーが、1時間ごとにJobRunner ログを大量に生成する問題が修正されました。
- プロジェクトをマッピング解除して再マッピングすると、編集が保存されないというスニペットの間

題が修正されました。

- スニペットの重複を調整すると、スニペットマッチが失敗する問題が修正されました。

5.0.1で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- ユーザーが表示する権限を持っているプロジェクトが、構成表の**プロジェクトの追加**メニューに表示されない問題が修正されました。
- `component.csv` プロジェクトバージョンのレポート作成中に、`NullPointerException`が発生する問題が修正されました。
- `ScanGraphJob`が失敗し、「Error in MAPPING_PROJECTS, Graph scan does not exist (MAPPING_PROJECTSでエラーが発生しました。グラフのスキャンが存在しません)」というエラーメッセージが表示される問題が修正されました。

5.0.0で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- SAMLを使用している場合にGoogleのG_Suiteが認証のためにGoogleにリダイレクトされないという問題を修正しました。
- IE 11を使用する場合にプロジェクトおよびプロジェクトバージョン設定が表示されないという問題を修正しました。
- コードスキャン制限の警告が表示されたときに、APIを使用して通知を取得できないという問題を修正しました。
- `system_check.sh` スクリプトが失敗するという問題を修正しました。
- Black Duck UIからダウンロードしたログに、zookeeper ログが含まれるようになりました。
- Kubernetesインストールの問題を修正し、`webserver init` スクリプトが、`nginx`のためにユーザー指定の`secrets`の`chown`をスキップするようにしました。
- [プロジェクトの追加] ダイアログボックスに10件のプロジェクトのみが表示されるという問題を修正しました。
- 階層構成表をロードする際のパフォーマンスが改善されました。
- 同じプロジェクトをグループに複数回追加しようとしたときにエラーが表示されない問題を修正しました。
- [ユーザーの管理] ページのグループメンバー列に同じグループ名が複数回表示されるという問題を修正しました。
- ユーザーがアクセス権のないプロジェクトを表示できるという、ロールに関する問題を修正しました。
- スニペットマッチングが正常に終了しないという問題を修正しました。
- [プロジェクト名の設定] タブの所有者リストに100人以上のユーザーが表示されるように、問題を修正しました。
- メインプロジェクトに存在しないコンポーネントマッチタイプがサブプロジェクトにある場合に、プロジェクトの脆弱性レポートを生成する問題を修正しました。

4. 8. 2で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- スキャンへの直接リンクにアクセスすると、SSOログインページではなく、Black Duckログインページに移動する問題が修正されました。
- ファイルのスキャン時に、GraphInitializationJobエラーが発生する問題を修正しました。
- Jobrunner コンテナが絶え間なく再起動する問題を修正しました。
- ファイルのスキャンまたはアップロード時に、Black Duckスキャナが「内部サーバーエラー」を表示する問題を修正しました。
- 長い外部IDが切り捨てられる問題を修正しました。
- オフセット値が正しく計算されないという、project-rest-server APIの問題を修正しました。
- スキャンジョブでデッドロックエラーが発生する問題を修正しました。

4. 8. 0で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- 脆弱性APIは、スコアがBlack Duckで利用可能になった時点でCVSS 2スコアを返すようになりました。
- グローバルコードスキャナの役割を持つユーザーが作成したレポートを削除できない問題を修正しました。
- Black Duck UIを使用してLDAPを設定したユーザーが、502エラーコードメッセージを受信する問題を修正しました。
- 行がすでに展開されていると、レポートの行が誤って表示される問題を修正しました。
- データベースのバックアップがシンボリックリンクを受け付けられない問題を修正しました。
- スーパーユーザーの役割を持つユーザーがプロジェクトを表示できない問題を修正しました。
- 構成表比較ページのページレイアウトの問題を修正しました。

4. 7. 1で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- ブラウザの言語設定が日本語の場合に正しく表示されるように、Black Duckスキャナのラベルが修正されています。
- プロジェクトバージョンの[セキュリティ]タブのパフォーマンスが向上しました。
- コメントが保存され、コメントアイコンが表示される前に、構成表テーブルの行が移動する問題を修正しました。
- [構成表]ページのヒントが閉じない問題を修正しました。
- 大きいヘッダーが原因で、NGINXから400の不正な要求エラーが発生する問題が修正されました。
- グローバルコードスキャナまたはプロジェクト作成者の役割を持つユーザーが[影響を受けるプロジェクト]タブに「結果が見つかりません」というメッセージを受信する問題を修正しました。
- 多数のコンポーネントを表示するときの、コンポーネントダッシュボードのパフォーマンスが向上しました。

- 多数のバージョンを表示するときの、[プロジェクトバージョン] ページのパフォーマンスが向上しました。

4. 7. 1で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- プロジェクトバージョンの[セキュリティ]タブのパフォーマンスが向上しました。
- [構成表] ページのヒントが閉じない問題を修正しました。
- 多数のコンポーネントを表示するときの、[コンポーネント] タブのパフォーマンスが向上しました。

4. 7. 0で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- 再スケジュールされた孤立ジョブのスキャンステータスが「失敗」に更新されないという問題を修正しました。
- 特定の日付範囲の脆弱性レポートに、更新も変更もされていない脆弱性が含まれているという問題を修正しました。
- [スキャン名] ページの[次により開始されたスキャン] フィールドにデータが入力されないという問題を修正しました。
- [ジョブ] ページに表示されているジョブステータスが間違っている場合があるという問題を修正しました。
- アポストロフィなどの特殊文字が、ユーザー名で文字のURLエンコードを表示するという、グループメンバーテーブルの問題を修正しました。
- [影響を受けるプロジェクト] タブの問題が修正され、コンポーネントとプロジェクトが正しくソートされるようになりました。
- Internet Explorer 11を使用している場合、Black Duck UIでスキャンがアップロードされないという問題を修正しました。
- 暗号文が有効になっていないと、createVersionReport APIが正常に動作しないという問題を修正しました。
- 2ステップのプロセスを使用してスキャンした後に、スキャンをプロジェクトにマップすると、構成表に「結果が見つかりません」というメッセージが表示されるという問題が修正されました。
- スキャンの状態が「完了」になった後に、大きなスキャンファイルがアップロードされ、プロジェクトのバージョンにリンクされた場合、構成表にデータが入力されないという問題を修正しました。
- Sysadminユーザーをプロジェクトメンバーとして追加できないという問題を修正しました。
- ポリシールールのコピーを妨げていたUIの問題を修正しました。
- KbReleaseUpdateJobが失敗し、Black Duckナレッジベースが応答しないという問題を修正しました。
- 構成表のコンポーネントバージョンの状態が「レビュー済み」のときに400エラーコードを返す findBomComponentVersion APIの問題を修正しました。

4. 6. 2で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- 既存のグループの全体的な役割を変更できないという問題を修正しました。
- プロジェクトダッシュボードのパフォーマンスが向上するように、問題を修正しました。

4. 6. 0で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- 脆弱性ステータスレポート、脆弱性更新レポート、脆弱性修正レポート、およびプロジェクトバージョンレポートの問題が修正され、無視コンポーネントがデフォルトで除外されるようになりました。
- ユーザーの作成または編集時にメールアドレスが必要になる問題が修正されました。
- 放棄されたスキャンジョブのスキャンステータスが更新されなかった問題が修正されました。
- 脆弱性レポートに更新または変更されなかった脆弱性が含まれる問題が修正されました。
- [構成表の比較] ページで、誤ってライセンスが変更されたように表示される場合がある問題が修正されました。
- スキャンジョブが24時間を超えると、Black Duck UIの[ジョブ] ページに誤った時間が表示される問題が修正されました。

4. 5. 0で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- Docker Swarmを使用するBlack Duckの実稼動環境が外部データベースに接続できない問題が修正されました。
- スキャンの進行中に[スキャン] ページが空白になる場合がある問題が修正されました。
- 同じグループの複数のユーザーが同じ許可を持っているのに、異なる検索結果が表示される場合がある問題が修正されました。
- 一部のAPIがコードの格納場所のサイズを返さない問題が修正されました。
- LogstashのログがBlack Duckクラスタに作成されない場合がある問題が修正されました。
- [コメントの追加] テキストボックスにフォーカスされたカーソルが表示されない問題が修正されました。
- Black Duck Scanner 2.0の実行時に、最初の証明書を検証できないエラーが表示される場合がある問題が修正されました。
- Protex BOMツールのユーザーインターフェイスの説明に含まれていた問題が修正され、必要とされる正しいJavaバージョンが表示されるようになりました (JRE 1.8. x以降)。
- Black Duckバージョン4.3.1でJobRunnerが切断される問題が修正されました。
- ホストしているBlack DuckカスタマーがCLIを使用してスキャンを実行できない問題が修正されました。
- コンポーネントのレビューフラグがすべてのコンポーネントで維持されない問題が修正されました。
- 脆弱性データベースのエントリの詳細を表示しようとすると、参照ページが空白で表示される場合がある問題が修正されました。

4. 4. 3で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- 特定の状況下で、Black Duckに空白のページが表示される場合がある問題が解決されました。

4.4.2で修正された問題

Black Duckバージョン4.4.2はメンテナンスリリースのため、お客様から報告された問題で修正された問題は含まれていません。

4.4.0で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- Docker コンテナのルートファイルシステムは読み取り専用としてマウントされるようになりました。
- 無視されたコンポーネントに関する通知が受信されていた問題を修正しました。
- 複数のライセンスがあるコンポーネントバージョンに関する[構成表] ページでの表示内容と[ソース] ページでの表示内容の不一致を修正しました。
- releasedOnおよびversionNameパラメータで、REST APIの並べ替えが機能するようになりました。
- 大規模なスキャンがジョブランナーでデッドロックエラーを引き起こしていた問題を修正しました。

4.3.1で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- マルチノードDocker SwarmクラスターとBlack Duckを実行しているときに、ジョブ実行コンテナが切断される問題を修正しました。

4.3.0で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- Solr コンテナが起動前に余分なロックファイルを消去しないためにSolrが起動しない問題を修正しました。

4.2.0で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- [セキュリティ] タブに脆弱性の一覧がベーススコアの降順で表示されるので、深刻な脆弱性がページの上部に表示され、見つけやすくなりました。
- [コードの場所] ページでコンポーネントマッチをロードするときにBlack Duck UIに「Hubサーバーが時間内に応答しませんでした。」メッセージが表示されるタイムアウトの問題を修正しました。
- スキャンが成功したか失敗したかを示すスキャンステータスが構成表ページのヘッダーに追加されました。
- security.csvレポートで提供されるNVD URLリンクが更新されました。
- プロジェクトバージョンの構成表でユーザーがレビュー済みコンポーネントのチェックボックスを編集できない問題を修正しました。
- 他の役割を持っていないプロジェクトメンバーがコメントを作成できなかったことによる問題を修正しました。

- レポートAPIのWeb APIドキュメントが各リクエストパラメータで使用可能なオプションに関する情報を提供するようになりました。
- レポートデータベースで転送ジョブが失敗するという問題を修正しました。
- 結果の数が100項目に制限される脆弱性APIの問題を修正しました。
- 誤ったユーザーの-avatarが表示される原因になるActive DirectoryのEメールアドレスの問題を修正しました。
- 並べ替えの順序が正しく機能しない原因になるcode-location-rest-server APIの問題を修正しました。
- [ジョブ] ページに表示されるKBVulnerabilityVdbUpdateJobが30分ごとにエラーステータスを表示する問題を修正しました。
- コンポーネントの数の多いプロジェクトで脆弱性レポートが失敗していた問題を修正しました。

4.1.1で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- 総スキャンサイズが、[コードの場所] ページに表示される報告されたスキャンサイズと等しくない問題を修正しました。
- プロジェクトの配布が変更された後にライセンス上のリスクが再計算されない問題を修正しました。
- 追加のライセンスまたはプロジェクトを選択すると以前の選択が削除されるポリシーールの作成時の問題を修正しました。
- レポートデータベースで転送ジョブが失敗するという問題を修正しました。

4.1.0で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- 古いバージョンのCentOSとの間に互換性がない可能性があるため、Dockerコンテナが開始されないという問題を修正しました。
- 構成表 (BOM) のインポート/エクスポートツールを使用して構成表をインポートする際に障害を引き起こしていた可能性がある問題を修正しました。
- JSONの出力で¥文字が正しくエンコードされないというREST APIの問題を修正しました。
- Black Duckユーザーインターフェイスでマッチタイプに加えた変更がレポートに反映されないことがあるという問題を修正しました。
- 中国語の文字を含む構成表パスが失敗することがあるという問題を修正しました。

4.0.0で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- 通知レポートファイルのテキストバージョンの書式に関する問題を修正しました。
- コンポーネント名に不正なカラムタイトルが表示されるというBlack Duckレポートの問題を修正しました。
- 独自のパスにスペースが含まれている場合に署名スキャナが失敗するという問題を修正しました。
- Windowsでのスキャン時に、除外パターンが機能するようになりました。

- 署名スキャナ.jsonldファイルに<%=moduleName%>タグが挿入されなくなりました。
- カスタム証明書の作成に使用するスクリプトによって、証明書の設定変更の保存に使用するコンテナの永続的なイメージが作成されないという問題を修正しました。

3.7.1で修正された問題

このリリースでは、お客様から報告された次の問題が修正されています。

- レポートデータベースで転送ジョブが失敗するという問題を修正しました。
- ユーザビリティに関する問題を修正しました。このため、Mac上で、リンクを選択して新しいタブでリンクを開く際にCMDキーを使用できるようになりました。
- [登録] ページに正しいコードベースの制限が表示されるようになりました。

Black Duckの既知の問題と制限事項は次のとおりです。

- REST API開発者ガイドのドキュメントに記載されているメディアの種類が完全ではない可能性があります。
- パフォーマンスの問題が発生した場合は、次の手順を実行します。
 1. Docker コンテナを実行しているサーバーにログインします。
 2. コンテナIDを確認します。

```
docker ps | grep postgres
```

3. Docker コンテナに対し、PostgreSQLを起動します。


```
docker exec -it <container id> psql -d bds_hub
```

4. Postgresプロンプトで、次のクエリを実行します。

```
ALTER SYSTEM SET max_wal_size = '8GB'
```

5. Black Duckを再起動します。

- Black Duckにおいて、名前でプロジェクトを検索すると結果が表示されない場合があります。この問題を解決するには：

1. システム管理者の役割でBlack Duckにログインし、展開式のメニューアイコン () から[管理]を選択します。
2. [システム設定]を選択します。
3. [再インデックス]をクリックすると、プロジェクトで再度インデックスが作成され、問題が解決します。

- ユーザーの認証にLDAPディレクトリサーバーを使用している場合は、次の点を考慮してください。
 - Black Duckは、単一のLDAPサーバーをサポートしています。複数のサーバーはサポートされていません。
 - ユーザーがディレクトリサーバーから削除されても、Black Duckユーザーアカウントはアクティブと表示され続けます。ただし、認証情報は有効ではなくなり、ログインに使用できません。
 - グループがディレクトリサーバーから削除されても、Black Duckグループは削除されません。グループは手動で削除してください。
- タグ付けでは、文字、数字、プラス (+) および下線 (_) のみがサポートされています。
- Black Duckがユーザーを認証している場合、ログイン中にユーザー名の大文字と小文字は区別されま

せん。LDAPユーザー認証が有効になっている場合、ユーザー名の大文字と小文字は区別されます。

- コードの場所に大規模な構成表がある場合、コードの場所を削除すると、ユーザーインターフェイスのタイムアウトエラーで失敗することがあります。